

# 「町制施行50周年・ 宗谷管内移管記念」シリーズ

## No. 5 厚生病院と町立病院

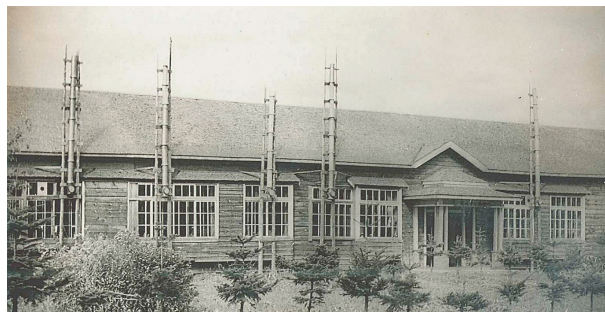
幌延村に定住して最初に診療したのは平邑 佐太郎 氏で、上幌延の法華宗農場が入地のときに農場顧問として招かれ、その子の太輔 氏は明治33年（1900）開設の私学校の教師となるなど、移住者の保健と教育に尽力されました。明治42年、平邑医師は天塩村雄信内に転出し幌延村は無医村となりました。大正2年（1913）に医師 竹中 精 氏が来村しましたが、まもなく他へ転出しました。村では篤志寄付によって医師の住宅を建築したりして医師の招へいに勤め、大正2年以降医師が不在となることはなくなりました。特に小只 開一 氏は、大正2年から昭和11年（1936）まで幌延で開業して村民の健康管理にあたり、人々から頼りにされました。

問寒別地区では、医師 柳 良蔵 氏が大正時代川口で開業し、大正14年（1925）まで診療に当たり、そのあと長谷川 五作 氏が拓殖医となり、昭和5年頃まで診療にあたりました。昭和6年には宮崎 浩輔 氏が拓殖医として赴任し、昭和28年（1953）まで地域住民の健康を管理しました。このほかに南沢、北沢地区（現北進）でも拓殖医が置かれ、診療にあたっていました。

公立病院が開設されるまでは、開業医が村から村医又は拓殖医として委嘱され、学童及び住民の予防接種などの業務も担当しました。

### （1）幌延厚生病院

昭和19年、村や農業会の努力で北海道農業会による幌延厚生病院が9月10日開院式を挙行し、翌日から診療が開始されました。これまで盲腸炎などの手術を要する病人は大半が名寄や旭川方面へ行っていましたが、その心配がなくなりました。



幌延厚生病院

### （2）幌延町立病院

昭和28年に村は、幌延厚生病院（北海道厚生農業協同組合連合会）を3,177千円で買収し、幌延村立国民健康保険病院として10月1日に発足しました。これが幌延町立病院のはじめです。

翌年4月には新病舎（現在の山村広場遊具付近）が落成しており、昭和29年4月18日の北海道新聞には「近く落成式 幌延保険病院」という見出しで次の記事が載りました。



幌延村立国民健康保険病院

村民待望の保険病院が昨年9月末から建坪137坪、工費520万円、設備費239万円で2月中旬に内部しゅん工、3月12日から診療を開始したが、近く外部塗装を終わって落成式を行う。同病院は道北随一の新鋭を誇るレントゲン室、手術室、同準備室、給食施設などを持ち、診療科目は内科、外科、産婦人科で5月からは歯科も開設するほか、へき地往診用のジープもこのほど購入した。現在の職員は医師2名、看護婦4名のほか事務員だが、1日50名前後の外来患者、27名の入院患者でテンテコ舞している。

昭和30年（1955）には、工費326万円で83.75坪（276.85㎡）を増築し、診療科目も内科、小児科、外科、産婦人科、放射線科、物療科の6科となりました。

昭和42年には、「幌延町立病院」と改称し、現在地に新築移転しました。工事が同年2月17日に起工し、11月26日に落成式を行ない、12月28日開院となりました。工事費は1億842万7千円、建築面積2,031.58㎡、構造は鉄筋コンクリート造2階建てで、ベット数は57床ありました。

このシリーズに関するお問い合わせ又は新幌延町史（平成12年発行、1冊 5,000円）の購入希望の方は、下記にご連絡ください。

お問い合わせ先 総務課企画振興グループ 電話 5-1111（内線 222, 223）